

経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2455号 2019年05月07日(火曜日)

《 a posturing position 》

日曜日のトランプ大統領のツイート（下記掲載）で、東京が連休中の週明けの世界のマーケットは波乱の幕開けでしたが、

「トランプ大統領に脅されても、中国の交渉代表団は予定通り今週ワシントンに来る」（CNBCが報道、中国政府も確認）

「今回のツイートは大統領得意の最終交渉を控えての脅し、一種のディール手法ではないのか」（本当は合意の確率が高いのではとの観測も）

との見方から、アジア、欧州の市場は下げたものの、ニューヨークの時間帯に入って株式市場は安値から反発し、ニューヨークの代表的指数は三つとも先週末比0.5%ないしそれ以下の下げにとどまった。彼のツイートは次のようなものだ。（2ツイートを一本に）

For 10 months, China has been paying Tariffs to the USA of 25% on 50 Billion Dollars of High Tech, and 10% on 200 Billion Dollars of other goods. These payments are partially responsible for our great economic results. The 10% will go up to 25% on Friday. 325 Billions Dollars....of additional goods sent to us by China remain untaxed, but will be shortly, at a rate of 25%. The Tariffs paid to the USA have had little impact on product cost, mostly borne by China. The Trade Deal with China continues, but too slowly, as they attempt to renegotiate. No!

今は10%の関税がかかっている2000億ドル分について、10日金曜日の午前零時をもって25%に上がる。加えて残る中国の対米輸出3250億ドルについても間もなく25%の税率で関税がかかる、という内容。言ってみれば米中全面貿易戦争の開始宣言。今までトランプ氏は「中国との交渉は順調だ」と述べていたところからの180度の転換。マーケットが驚き、そして月曜日のアジア・欧州の市場やニューヨークの寄り付きが大幅安になったのは当然だ。

しかしニューヨーク市場が進むにつれて、株価は戻り始めた。一日のチャートを見ると、ほぼ一日着実に値を戻している。寄り付きが26160.60ドル、その直後の安値26033.90ドル

(約 471 ドル安) に対してジリジリと戻して、引値は 26438.48 ドルとなった。これは先週末引値に比べて 66.47 ドル、0.25%安にとどまる。言ってみれば「小幅安」でのエンド。他の代表的指数も引値では S&P500 が 0.45%安、Nasdaq が 0.5%安にとどまった。

なぜ大きな反発となったのか。冒頭に書いた二つの要因が大きい。つまり「中国は依然として交渉姿勢だ」(対米交渉の打ち切りはしない)「トランプ大統領の最後の脅しも、要するに交渉術の一環」という見方。もっとも、マーケットが反発した大前提は、最近のアメリカの株式市場が、①FRB の利上げ停止宣言とマーケットでの利下げ観測 ②4月の雇用統計に示されたアメリカ経済の強さ..... にあり、環境自体が良かったことが大きい。

但し残された問題も多い。中国の交渉団の構成などはこの文章を書いている時点では不明で、中国に譲歩の意図があるのか、代表団が来たとしても最終的決断が出来るのかなど不明な点が多い。今後のポイントは、①中国の代表団に劉鶴副首相(交渉トップ)が含まれるのかどうか、②国営企業への中国の補助金など最も米中で揉めていた問題で、両国がどのような着地点を見いだすのか ③トランプ・習近平のトップ会談が設定されるのか..... など。これらの見通しが立たなければ、週明けのマーケットが示した「戻しの力」の持続性には疑問符が付く。

《 U.S. interest rates are still very low 》

株式以外のマーケットを見ると、ドル・円は日本が休みに入る前に比べてやや円高の 110 円台の後半。特に大きな材料はなかったが、日米貿易交渉が始まる中でトランプの対中強硬姿勢(スタンスだけとしても)を見ればとても「円安の展開」は予想できないという見方が出てきて当然だし、ドル高の大きな背景になっている米金利はむしろ低下傾向という点を指摘できる。

今朝の段階の米指標 30 年債の利回りを見ると、週明けのマーケットの引値は 2.488%。一日のレンジが 2.475~2.523%なので、どちらかと言えば低い水準での引け。年間のレンジを見ると 2.341~3.263%で、現段階のレベルは上限の方が遙かに遠い。下限の方が近い。FRB が年内金利を引き上げないという方針を打ち出す中で、円安要因は少なくなっているように見える。

問題は 4 月の米就業者数が 26 万 3000 人にまで達し、失業率が 3.6%に下がる強いアメリカ経済と、むしろ低下が目立つ米金利動向の整合性のなさ。4 月の米雇用統計は就業者数と失業率の両方で市場予想を良い方向に大きく上回っており、通常ならアメリカの金利は上昇で反応してもおかしくない。しかしその気配はほぼない。

何故かについては、繰り返しの議論になるがやはりネット中心の経済構造の変化が大きいと思う。また世界中の国が市場経済に参加して、国際的に見れば依然として安い労働賃金を企業が得られる環境にあることも大きいと思う。もっともさすがにアメリカの労働賃金は上昇を始めている。4 月の平均時給も 27.77 ドルと前年同月比 3.2%上昇しており、この 3%台の賃金上昇は 2018 年後半から 9 ヶ月連続だ。

所得が増えれば小売も好調。3月の小売売上高は前月比1.6%増えた。これは1年6ヶ月ぶりの高い伸び。今のアメリカ経済の強さが改めて証明された印象になっている。この好調さの中でトランプ大統領は1%の利下げをFRBに要求、それにはペンス副大統領も加わった。今のアメリカの株式市場は、大きなトレンドとしては「上を向いている」と考えても当然な環境だ。週明けのマーケットでの寄り安値からの戻しにも、その力強さを感じる事が出来る。

今後のマーケット的注目点は、それを根本的に崩すような出来事があるのかどうかだ。米中貿易摩擦は常に注目されているが、多分マーケットは「決裂のリスク」をある程度織り込んでいると思う。その上で、今後何が起こりうるかを考える時期に差し掛かっている気がする。

- - - - -

今週の主な予定は以下の通り。

- | | |
|-------------|---|
| 05月07日（火曜日） | 4月の新車販売
中西経団連会長の記者会見
3月の豪小売売上高
3月の米消費者信用残高
米3年物国債入札 |
| 05月08日（水曜日） | 4月のマネタリーベース
日銀金融政策決定会合の議事要旨（3月14～15日開催分）
3カ月物国庫短期証券の入札（財務省）
10年物利付国債の入札（財務省）
4月の財政資金対民間収支（財務省）
ニュージーランド中銀が政策金利を発表
4月の中国貿易統計
タイ中銀が政策金利を発表
欧州復興開発銀行（EBRD）の年次総会
米10年物国債入札
ブラジル中銀が政策金利を発表 |
| 05月09日（木曜日） | 菅義偉官房長官が訪米（12日まで）
4月のオフィス空室率（三鬼商事）
4月の消費動向調査（内閣府）
三村日商会頭の記者会見
4月の中国卸売物価指数
4月の中国消費者物価指数
4月の米PPI |

0 5月10日（金曜日）

3月の米貿易収支
3月の米卸売在庫・売上高
エバンス・シカゴ連銀総裁が講演
米30年物国債入札
3月の毎月勤労統計速報
3月と18年度の家計調査
日銀金融政策決定会合の主な意見
（4月24～25日開催分）
対外・対内証券売買契約
3カ月物国庫短期証券の入札
10年物価連動国債の入札
4月の車名別新車販売
豪中銀の四半期金融政策報告書
1～3月期の英GDP速報値
4月の米CPI
ブレイナードFRB理事が会合であいさつ
4月の米財政収支

《 have a nice week 》

長いお休み期間中はいかがでしたか。フルに休まれた方もいたでしょうし、一部だけという方も。サービス業なのでずっと仕事だったという方もいらっしゃると思います。日本にとって春のこれだけ長い休みは未体験ゾーン。いろいろな出来事がありました。高速道路の一部区間での渋滞は酷かったし、大型商業施設の混みようも半端なかった。しかし特定場所での渋滞はあったが、概ね都内の道路は空いていて、私のような残留組には快適でした。

今朝は「なんか調子が出ない」と言う方と、「仕事のある日常に戻れてむしろラッキーだと思っている」という方がいらっしゃるでしょう。マーケットを見ている私としては、日本が長い休み中の海外の動きが気になっていたのですが、ドル・円相場など結果的にはあまり大きな変動はなかった。しかし問題はこれからでしょうね。

レギュラー番組の関係で10日間をほぼ都内で過ごしましたが、一つ面白い企画だったのはパーティバスへの乗車でしょうか。かなり昔にロンドンで使われていた大型の二階建てバスを仲間11人で借り切って都内を走り回るという企画。夜の2時間。面白かったですね。またやりたい。大音響で踊りまくるといようなことはなかったのですが。

それでは皆様には良い連休明けを。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータ

は各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。
また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》